

令和7年度 第2回ニセコ町観光審議会 議事録

1 日 時

令和7年（2025年）11月26日（水） 14:00～16:10

2 場 所

ニセコ町役場 3階 町民ホール

3 出席者

委 員 下田委員、伊藤委員、菊井委員、桑添委員、石黒委員、若杉委員、玉尾委員、高井委員（8名）

ニセコ町 田中町長、山本副町長
(事務局) 商工観光課 馬渕課長、市原参事、米田係長、久保主事、勝木主事

オブザーバー 株式会社ニセコリゾート観光協会 中野事務局長

4 内 容

(1)田中町長挨拶

10月からニセコ町長に就任し、初めての観光審議会となるが、観光審議会町長が委員に観光施策などを諮る機関であると伺っている。特にこれから観光事業者の皆様は、お忙しい時期に入るかと思うが、こうしてご出席賜り改めて御礼申し上げる。その上で、今日は宿泊税の使途について主な議事として挙げさせていただいている。

もともとリフト税から検討が始まった宿泊税について、ニセコ町は定率制を導入する方向で議論が始まったが、北海道の宿泊制導入検討が本格化され、結論として昨年11月から定額制で導入することになった。

日本の税の仕組みから、異なる税率が認められることは難しいということ、徴収する事業者の負担を軽減したいということで、北海道に合わせて、ニセコ町としては定額制で導入することになった。宿泊税導入にあたっては、この審議会で諮りながら導入に至ったと報告を受けている。

しかしながら、先行した自治体として、俱知安町は特例として定率制のまま北海道宿泊税を導入するということで、総務省の同意も得られたところである。国が税制度として認めることがわかったため、ニセコ町としても、そもそも議論のスタートが定率制であったことに加えて、ニセコエリアとして隣接する、或いは観光圏として連携している俱知安町と同一な制度にしていくことで、宿泊者の応分負担や理解促進、或いは事業者の皆様の事務軽減を図りたいため、今回町として、私が就任した直後ではあるが判断したところである。

本来であれば、この審議会の議論を踏まえての決定も考えていたところだが、まずは早急に決断すべきではないかということで、原課を始めとする関係者とも議論し、方針を示したところである。もちろん、この件については12月の議会で諮られるところだが、まずこの観光審議会の趣旨やこれまでに観光審議会でもご議論いただいたということで、私からご報告をさせていただいた。その上で、本日は宿泊税の使途についてぜひ忌憚のない意見を委員の皆様からいただき、ニセコ町として本当にるべき姿の実現に向けて、ご意見をちょうだいできればと思っている。

(2)会長・副会長選出

立候補により、高井委員が会長、若杉委員が副会長となった。

(3)議題

「宿泊税について（資料1）」について事務局より説明を行った。

〈米田係長〉

そもそも宿泊税の使い道を決めるにあたっては、特別徴収義務者である宿泊事業者、或いは町民からもご意見を伺いながら決めていくこととしているため、使途の意見交換会やオンラインフォームを設けてご意見をお伺いする機会を設定している。いただいたご意見をまとめているが、かなりの量となるため、説明は資料1－1で行う。

1ページ目について、ニセコ町の宿泊税の使い道は、年2回の意見交換会ほか、主要施設のホテルでの支配人会議等で意見を伺いながら、本日開催の観光審議会にお諮りし、町の予算を確定させて最終的には議会でご審議いただくところ。

2ページ目について、今年度の使途決定のプロセスであり、6月に3回の意見交換会を開催し、そのあと9月から10月の2ヶ月間で、意見交換会以外で意見を伝える機会を設けて欲しいというご意見のもと、オンラインフォームでの意見募集を実施した。今年度は1回しか募集できなかつたが、来年度以降は意見交換会と合わせて年2回設ける予定である。11月上旬にも意見交換会を3回開催し、そのあとホテルの支配人との意見交換をして、観光協会主催の観光カフェでも宿泊税をテーマに開催したところ。今まで出てきた論点等を整理して、本日の観光審議会を迎えていた。

本日いただいたご意見を踏まえつつ、役場の他部署に宿泊税の使途に関する要望調査を実施しているため、その調整も行いつつ、12月に予算案を固めて、財政部局と調整したうえで、3月議会で審議していただくというスケジュールになっている。

3ページ目、宿泊税の使い道の決定については、ニセコ町の観光基本計画である観光振興ビジョンにも紐づけており、今年度1回目の審議会で観光振興ビジョンをテーマにしたが、今年度が中間のフォローアップの年になるため、年明けにまた改めて審議会を開催しご意見を伺えればと思っている。

4ページ目の宿泊税の活用事業案について、先ほど町長から定率制に向けた話があったが、仮に定率制になったと仮定すると、現時点での想定で約2.6億円の税収が見込まれている。この2.6億円をどのように使っていくかというところで、地域内交通の充実や受入環境の整備、観光地としての魅力向上、町の観光の旗振り役となる現観光協会の組織的な強化、持続可能な観光地域づくりという観点で、町内事業者の基盤強化やグリーンシーズンの誘客につながる取り組みの実施、或いはニセコ町の景観や環境を守るための取り組みに活用することとしている。

最後に、特別徴収義務者となる宿泊事業者の事務負担に対する還元を5%実施し、トータル2.6億円を活用していくべきだというところで、一旦我々として案を考えたところである。

5ページ目以降、各項目について説明すると、地域内交通の充実について、二次交通の充実が喫緊の課題であるということは、役場・事業者双方の共通認識であり、昨年度も宿泊税を充当したところだが、継続・拡充を検討しており、現時点では各項目の合計で約1億3,720万円の予算を見込んでいる。

まず、ニセコ周遊バスの拡充運行について、冬期のみならず今年度は夏に実証運行をしたところである。域内周遊や交通の利便性向上という観点で、周遊バスは大事だと考えており、ドライバーが不足しているという課題はあるが、例えばJRとの接続を図っていく、或いは夏の実証をより長期間できるようにするといったところで、令和8年度は、今までよりも規模を拡充できればと考えており、4,500万円程度を見込んでいる。

2つ目の町道等ロードヒーティングについて、予算6,000万円を見込んでいる。場所等についていくつかご要望をいただいているが、スキー場へのアクセスに際し、バス送迎時に滑ってしまったり、スタックしてしまうという課題解決のため、町道等のロードヒーティングを実施できればと考えている。6,000万円というなかなかな規模感ではあるが、イニシャルコストとランニングコストの合計であり、イニシャルが一番ご要望の多いヌックアンヌプリ手前の施工で約5,000万円かかり、ランニングはすでにある3か所のロードヒーティング

箇所も含めた電気代で約1,000万円を見込み、トータルで約6,000万円としている。

3つ目のモイワ・アンヌプリ間の除雪と登山道路等における砂まきについて、安全の確保、モイワ・アンヌプリ間の冬のアクセス改善による利便性向上という観点から、昨年度より実施しており、継続していければと考えている。

4つ目のタクシーのニセコモデル継続について、もともと令和5年度から実施しているニセコモデルだが、令和6年度も実施して、令和7年度もまた12月から実施する予定である。ニセコ町・俱知安町両町で、リゾートエリア同士、或いはリゾートエリアと市街地エリアを結ぶ足として、ニセコエリア外からタクシードライバーとタクシーの車に来てもらい事業を実施しているが、引き続き実施できればと考えている。令和6年度が510万円で、令和7年度が1,422万円、令和8年度が一旦2,000万円で見込んでおり、これは単純に規模を増やすのではなく、令和6年度は、観光庁の補助金を活用して両町で負担する予算が大分少なくなってきたおり、現時点で来年度の補助金の有無の見通しが立たないため一旦予算としては2,000万円で立てている。有利な補助金等の活用については、ニセコモデルに限らず今後も検討していく。

続いてカーシェアについて、ニセコエリア内の交通充実の観点でニセコ駅と町民センターにタイムズのカーシェアを設置している。冬場にニセコ駅に置いている車は、結構な頻度で使われており、来年度以降も継続していければと思っているが、意見交換会の中で、現在設置している車のサイズが少し小さく、スーツケースが複数あるとなかなか荷物が運べないというご指摘をいただいた。タイムズ社との交渉になるので、すぐに変えるとは現時点で言い切れないが、車種の変更も含めて今後検討を進めていければと思っているところ。

最後が、宿泊事業者の送迎連携支援で、まだ我々も案として考えている段階で、例えば、周遊バスの運行がないJRの始発或いは終電に合わせて、各事業者が送迎を行っているが、事業者同士の連携により負担軽減が図られるのであれば、そこに支援できないかと考えている。一方で、意見交換会の場では、連携ではなく、個別の送迎に対する支援はできないのかといったご意見も頂戴したため、制度設計面で、ぜひ本日ご意見を伺いたい。

項目としては、この6つだが、交通事業者の人手不足が深刻な中で、自動運転の実装はできないのかといったご意見も少なからずいただいたので、来年度どうこうという話ではないが、今後検討をしていければと考えているので、頭出しだけさせていただく

以上が交通の部分で、続いて6ページ目の受入環境整備、観光地の魅力向上について、2つ項目として挙げている。まず1つ目が、Wi-Fiの導入調査実証事業である。スキー場だけでなく全町で使えるWi-Fiの導入をしてほしいというご意見もあったため、まずはどのような形であれば導入できるのかを調査し、スムーズに導入できそうであれば実証も含めて来年度実施できればと考えており、概算で約2,000万円を想定している。

次のイベント開催支援について、グリーンシーズンの誘客がニセコ町の課題というところで、新たにイベントを開催する場合への支援を想定している。ただ、意見交換会で、既存のイベントもたくさんあるので、その充実も必要ではないかというご意見をいただいたため、今までできていなかったプロモーションに力を入れるといった既存イベントの強化を図る際にはそこも応援できればと考えている。具体的な制度設計はまだだが、複数事業者が連携してイベントを実施するのであれば、単独で実施する場合と比べて補助率・補助上限を引き上げるといった内容にして、事業者のさらなる連携を応援できればと考えており、約1,500万円を見込んでおり、受入環境整備、観光地の魅力向上で約3,500万円としている。

続いて、観光協会等のさらなる強化について、事務局長が現在のような任期付きであれば、なかなか中長期的な取り組みを進めていくのが難しかったり、人が変わるタイミングで段差がでてしまふため、新たな事務局長の採用をはじめとした観光協会プロパー職員の強化を想定している。事務局長のみならず、旅行商品の造成、情報発信の強化といった観点で人材を確保していくために、約2,500万円を見込んでいる。

2点目の地域観光マネジメントする体制の強化について、人材確保とリンクしてくる部分が多くあるが、地域観光のマネジメント、稼げる体制強化という観点で組織的な強化を図っていきたく、その検討に約250万円を想定している。

3点目の広域観光の部分について、ニセコ町、俱知安町、蘭越町の地域連携DMOであるニセコプロモーションボードについて、マーケティング実施に加えて、観光圏事務局も担つており、来訪者満足度調査の実施等をしているが、プラスアルファでデータ分析等を強化・推進していくという観点で約250万円とし、観光協会等のさらなる強化合計で約3,000万円を想定している。

8ページ目の持続可能な観光地域づくりについて、観光事業者の人手不足対策として、省人化・生産性向上に資する観光DX導入にかかる費用の一部支援できればと考えており、約1,000万円を見込んでいる。

2～4点目について、観光協会が主体になるが、グリーンシーズンのコンテンツ充実という観点で、ニセコトレイル、温泉、ガストロノミーといったコンテンツの開発や連携推進に約1,000万円を見込んでおり、整備したコンテンツのプロモーション強化も両輪で必要になるため、SNSやインフルエンサーマーケティングの実施等も約1,000万円で実施できればと考えている。教育旅行・MICE誘致補助について、MICEも地域経済に裨益するという点においては重要な要素の1つであり、MICE誘致にかかる会場費やバス代、或いは参加者にニセコ町内事業者の特産品を使ったお土産をプレゼントする場合にそこに対する支援を検討しており、約200万円を想定している。

最後にニセコルール等の継続について、これはずっと実施している取り組みだが、冬のニセコエリアのスキー・スノーボードに関する取り組みであるニセコルール、或いはニセコなだれ情報について継続していくために活用できないかというところで300万円を想定し、トータル3,500万円を見込んでいる。

9ページ目のその他について、特別徴収義務者の事務負担支援として宿泊税収の5%である約1,300万円と、柱の1つでもある将来の観光需要、例えば、災害やパンデミックが発生したときの初動対応用として基金に積み立てる5%の1,300万円とし、全事業合計が約2億6,320万円となり、想定税収を充当しきるという想定となっている

また、中長期的な活用という観点で自動運転の実証や、日帰り客を入れると一番観光入込が多い道の駅の再整備の話が出ているため、こうした観光施設の充実などのハード系にも使えないかと考えている。

また、景観・環境保全というところで、ごみ問題や浄化槽問題も中長期的には、宿泊税を使って対策を行っていくことも考えられる。

景観を守るというところでは、無電柱化事業の実施などが挙げられるが、予算が大きいため、現時点で何かという話ではないが、例えば、国や道の補助金等を活用しつつ、町で負担をしなければいけない部分に宿泊税を活用できないかと考えている。

中長期的な活用が想定される事業については、事業を実施するとなった際に基金も使いながら実施をしていければと考えている。

私からの説明は以上だが、8ページ目のグリーンシーズンのコンテンツ部分やプロモーションのところについて、中野事務局長から補足等あればお願ひしたい。

〈観光協会〉

グリーンシーズンのコンテンツ充実と夏の誘客に向けたプロモーションの実施について、今年からトライした部分も含めて記載されている。プロモーション実施に当たり、誰に何を発信するのかを考えたときに、ニセコ町の武器になるもの、強みになるもの、ニセコ町に行きたいと思えるものは何だろうというところで、例えば、トレイルやサイクリングについて、他の観光地に同様のコンテンツがある中で、新しい取り組みを付け加えて、新しいものとして発信することを今年少し実施したところで、来年度は継続・強化していきたいというのがコンテンツ充実とプロモーションの実施ということになる。

そのため、取り組みの順番としては、まずコンテンツの充実を図ることで、例えば、ニセコトレイルのコースを作り、試験的にツアーを実施したり、ニセコ高校生と一緒に動画を撮りながら実施することで、その動画が次のプロモーションのコンテンツになっていく。或いは、SNSのインフルエンサーに同行していただくことで、1分半の動画を作って

もらい、それを発信していく。今年は、札幌にフォロワーが多い3の方に来てもらい動画を撮ってもらったところ。1分半の動画撮影およびプロモーション用のランディングページ作成で大体100万円くらいかかるところである。

今年度は、ニセコパノラマラインを自転車で走り降りるツアーリーに取り組んでいる。次年度は例え東京をターゲットにするだけでなく、宿泊税も活用して費用負担の大きい海外にも発信し、ニセコ町の魅力に新しい色を加えてそれをSNS等を使って発信するようなことをやっていきたいと思っている。

〈米田係長〉

以上で資料の説明は終わりとなるが、先ほど令和6年度の充当資料も資料としてお配りさせていただいた。令和6年度は交通分野への充当中心となったが、今後使い道が多様化していけば、もう少し分厚い冊子のような形になるのではとイメージしている。令和6年度は特に基金への積み立てが多くなったが、先ほど説明した中長期的な事業への活用も今後検討していきたい。

以上を踏まえ、委員の皆様から宿泊税の使途に関するご意見をいただきたい。

(4) 意見交換

議題について、意見交換を行った。

〈委員〉

この2億6,000万を想定している税収総額は、いま議論されている定額・定率でいうどちらで想定している話か。

また、俱知安町も実際に宿泊税の収入があって独自の支援事業に使っていると思うが、ニセコ全山のことを考えると、やはりプロモーションボードのように共通した事業体や取組みに対して活用すべきと思うが、俱知安町とニセコ町が何か連動している事業があるか。

それから、宿泊税は一般会計ではなく特別会計で活用されると思うが、その管理は商工観光課なのか税務課なのか教えていただきたい。

〈馬渕課長〉

今回の資料では、定率制を見越した2億6,000万を予定している。これがもし決まらなければ、そもそもの中身を考え直さなければならないが、今のところ町として進めてきた定率制の中での予算繰りとしている。

また、NPBの関係について、満足度調査とデータ分析プラットフォームは、実はすでに俱知安町・蘭越町と連携しながら行っているものである。今まででは、満足度調査にお金をあまりかけていなかったが、観光振興ビジョンにおける目標値の根拠資料にもなっているので、きちんとしたデータ取りをするために、NPBに力を入れてもらいつながら、満足度調査やデータ分析などを進めていきたく、俱知安町とも連携しながら、費用負担は按分し、ニセコ町の負担額を記載している。

一般会計か特別会計かについては、商工観光課以外にロードヒーティングであれば都市建設課、交通であれば企画環境課などが想定されるが、基本的にはすべて一般会計で予算編成予定である。

〈委員〉

ニセコプロモーションボード以外で、商品づくりや顧客満足度が上がるような取り組みについて、俱知安・ニセコ両町の観光協会で連携して実施しているものはあるか。

〈観光協会〉

2022～2024年度は、夏のスカイバス事業を連携して行った。それから、M I C E のコンテンツ造成というところも連携して実施したという実績がある。2025年度は、そういうプロジェクト形式で一緒にやるような取り組みは特にないが、その要因として、補助金が取れなかつたので連携事業が実施できなかつたということもある。

今よく話題になるのは、やはり交通の部分で、夏も冬もひらふやビレッジ、アンヌプリ、モイワ、ニセコ駅、ビュープラザと全部挙げるととても広くなってしまうが、交通の利便性を高められないかという議論をしている。ただ、ニセコ・俱知安全域をカバーしようとすると、やはりバス会社1社ではなかなか難しい。ドライバーも不足しており、そういったところでなかなか実現には至っていない。

あとは、連携主体のニセコプロモーションボードや蘭越町も含めて、一番連携したいと思っているのは人材育成や、データの収集分析で、広域で連携して効率化を図れる部分はどんどん積極的に、ニセコ観光圏として連携をしたいと思っている。

〈馬渕課長〉

追加で、連携の部分で1つ大きいのは、俱知安町と連携しているG Oニセコモデルである。あと、資料上に記載はないが、今年はN P B、俱知安観光協会、ニセコ町が連携しながら愛知で開催されたツーリズムEXPOでプロモーション活動を行っているので、その件に関しては来年度もニセコエリアとしてP Rや強化を行っていきたいと考えている。

〈委員〉

この2億6,000万の中で、令和8年度限りのものなのか、9年度以降も継続していくのかといったイニシャルコスト・ランニングコストの分類があれば教えてほしい。特にロードヒーティングは規模が大きいが、毎年約6,000万円もかかるイメージなのか。

〈米田係長〉

イニシャルが大きい部分は、まさにロードヒーティングである。仮にヌックアンヌプリ手前で施工すると約5,000万円かかり、令和9年度以降は必要なくなるが、ほかにも箇所として要望があるので、いつまでどのくらいかかるのかを現時点ではつきりするのは難しい。

〈委員〉

イベント支援について、補助率3分の2と記載があるが、すでに実施している魅力アップ事業を宿泊税由来にするということなのか、既存事業はそのまま残すのか。

また、他に既存事業で財源を一般財源から宿泊税に変更するものがあれば教えてほしい。

〈米田係長〉

1点目の魅力アップ事業について、イベント開催のみならず、商品開発等にも活用されており、商工業活性化の観点でも重要なので、残していければと思っている。

2点目的一般財源からの振替え事業について、基本的には既存事業ではなく新規事業や拡充事業に充当しようと思っている。ただ、ニセコルールは、今まで一般財源で措置してきたが、冬の観光振興に資する部分であるため、新たに宿泊税を充当できればと考えている。

〈委員〉

もともと1億6,000万から約3億になるという中で、どんなことができるのかと思っていたが、こうやって見るとすぐに飛んで消えていくのだという印象を受けている。その中で、インフラというか、イニシャルに関わるもののが大きいと感じており、もちろん、ロードヒーティングに金額がかかるのは理解しているが、ここですでに6,000万円なので、ランニングに充てていくとなると次からも必ず1,000万円ずつかつてくることになるため、今回それを決めてしまって良いのか悩ましいと思った。

確かに、ヒラフのロードヒーティングで2,000万円くらいのはずだが、ロードヒーティングも見方によってはツルツルになる。ニセコ町はどういうロードヒーティングをしていけば良いのか、時間帯をどうするか、ひらふ坂と違って使う時間も違ってくると思うのでそのあたりを精査していただきたい。

あと、メニューとして広くなったのはすごくわかるが、個人的に深くなっていると思ったところ。例えば、教育や文化など、他の宿泊税の活用を見ると昔ながらの歴史的遺産を残すためであったり、食文化を何かしようというメニューはありがちだが、もちろんイベント支援で関連はあるものの、中長期に想定する事業の中に、20～30年といった、まだ誰も効果測定ができないようなある意味では投資というか種まきという事業が少ないのでないか。

今の課題、目の前に見えている課題を対処するだけで3億円が消えてしまうが、次回以降は、せいぜい3億5,000万円かせいぜいそこら辺だと思うが、メニューを増やすときにはもう少し深度のあるメニューを組み立てていただけるとありがたい。

〈田中町長〉

まず、ロードヒーティングについて、場所も含めてまだ決定事項ではない。一方で、事故が起こりうる箇所が多く、観光のみならず、バスのトラブルで町内の交通渋滞がボトルネックになっている中で、場所やランニングコストをどうするかといったお金のかけ方を精査した上で実施できればと考えており、決してやみくもに広げていきたいというわけではない。

ただ、現状で今は町内の4ヶ所（町道3ヶ所、道道1か所）にロードヒーティングがすでに設置されており、これは宿泊税導入前から実施している。先ほどの回答の補足となるが、今まで一般財源で充てていたロードヒーティングのランニングコストに対して宿泊税を充当できればというのを案としてお出ししている。

あとは、その広がったメニューに深みがないというご指摘もごもっともだと思っている。一方で、鶏と卵の議論だが、今回私たちも内部で検討する中で、意外とあつという間になくなると正直に感じている。その中で、どこを深くしていくかという点は、実施しながら適宜検討していくことも必要と思っている。もちろん観光ビジョン等ぶれてはいけない軸は必要だと思うが、単純に去年やったから今年もやるといった形ではなく、実績も踏まえて、どこを深化させていくかについては、審議会等の場でまた議論していかたい。

もう1つ、今回私として特に大きな一歩だと思っているのが、観光協会等のさらなる強化である。観光振興ビジョンで明記されている観光協会の体制強化により、事業の精度も高まっていくと考えており、どの事業を伸ばしていくかにもつながると思うので、ぜひ宿泊税を活用して体制を強化していかなければと思っている。

〈山本副町長〉

町長の話を前提としてテクニカルな話をするとき、本日の議論は予算範囲内で何に使うか、というだけでなく、より大所高所で構わないと考えている。

例えば、ロードヒーティングの金額が話題となったが、行政の予算の仕組みとして、過疎債や緊防債といつても有利な借金の活用も可能であり、こうした別の財源を活用することも可能である。例えば過疎債を7割活用すれば、宿泊税の充当部分は残り3割となり、他の事業に活用することも可能となるので、配分どうこうに限らずご意見をいただければと思っている。

〈観光協会〉

ニセコ小学生がニセコ駅の今後を考えるという総合学習のお手伝いをしており、ゴールが企画書を作成してプレゼンテーションをするというものである。先ほどのイベント補助などがあると、そういうものにも活用していけるのではと思っている。観光協会が柱にしようとしているところでいうと、地域の学校との観光教育のお手伝いや、我々が教える立場だが実はすごく教わっていることが多いので、そういう取組みの推進も、山本副町長がおっしゃったもう少し広い話として観光協会の体制の1つにしていきたいと思っている。我々が教える立

場だが実現可能な企画となることもある。

〈委員〉

まず、地域交通について、個人的にロードヒーティングは大賛成である。1点意見すると、今は普通のロードヒーティングで、多分これから技術的に実用化されていく発熱コンクリートの導入をぜひ検討してほしい。電圧を上げるとコンクリートが発熱するもので、従来より30%エコロジーであるというものの、ぜひ環境モデル都市として進めていただきたい。

それと、周遊バスのニーズはもちろんあると思うが、ニセコ町・俱知安町といった広域の取り組みも大事で、現在ほぼ動きのないニセコ観光局が交通に特化して動き出すという話もあるし、プロモーションボードとの連携含めた検討が必要である。俱知安町も一定の収益があるはずなので、ぜひ広域での議論も実施してほしい。

もう一点、レンタカーのラインナップが乏しい、タイムズの車種を変えられないか、という話だが、弊社で新たにレンタカー業を登録したところで、冬期スタッフ向けの長期間レンタカーも用意しているので、ご案内させていただく。

あと、タクシーやバスを待ちきれないで、歩きたいという外国人がいる中で、平成30年に事故があったことも踏まえ、危険箇所にラインレーザーを設置すれば、運転手側も吹雪の時に安心だと思うので、検討をお願いしたい。

最後に、プールがないといった意見があり、場所がないと書いてあるが、それで終わらせるのではなく、教育などの観点からも、市街地エリアに、プール、ジム、カフェといった複合的な施設を検討していくべきだし、町長の公約にもあったのではないかと思っている。

〈馬渕課長〉

ラインレーザーについて、道道は今すぐの実施が難しいところであるが、町道については、担当部署と確認してすぐできるものなのか、来年なのか、その辺は確認したい。

〈田中町長〉

ニセコ観光局の話が出たが、どのような形であっても、広域の連携を進めていくことは重要と考えている。すでに交通分野で連携しているが、プロモーションやコンテンツについても、町独自で進める部分としっかり棲み分けしつつ、連携していかなければと思っている。

最後に、プールなどについて、資料上で明記していないが、ハード整備への活用も念頭に置いている。先ほど副町長から他財源の話があったが、道の駅の再整備含め、すべて宿泊税で賄うのは違うと私は思っているが、複合的な施設であれば一部宿泊税を活用して事業を行うこともあり得ると思っている。公約にもあったということで、あえて申し上げると、場所がないからというわけではなく、他方で町の一大事業になるので、対話を重ねて慎重に議論をしながら、しっかりと考えていきたい。

〈委員〉

まず、冒頭に町長から宿泊税の定率制の変更についてお話をいただいたが、宿泊税導入に向けて、審議会で何度も議論をしたという中で、今回の変更にあたり審議会での議論がなかった点は少し残念に思っている点お伝えさせていただく。

宿泊税の使途について、前回審議会のテーマであった観光振興ビジョンの中では、町民が誇れるリゾート地を目指すと書かれており、地域住民が観光に恩恵を受けていることを実感できることが重要だとなっている。そういうことを踏まえ、宿泊税の使途は観光客だけではなく、地域住民にもメリットがあるべき思っているが、まずは今これだけ観光客が増えている中で顕在化している問題への対応が重要ではないかと思っている。

その1つが交通で、昨年も何度も事故があった。町の所管は町道だと思うが、道道における交通標識の改善、まだまだ英語表記が足りないところがある。あとは、冬道運転の注意点や危険箇所を示したマップのようなものを外国人向けに作成することも必要ではないか。

ロードヒーティングについて、これほど強い意見として出ているのを今日認識したところ

だが、我々も毎年残念ながら必ず同じ場所で事故が起きている。今のところ大きな事故になつてないが、大きな事故が起きる前に何か対策が必要だと思っている。一番心配なのは、我々は危険だと思ったら止まれという指導をしており、止まったときにタイヤをロックしたまま滑り落ちる坂がある。道路が滑るのはどこも滑るが、特別な対策が必要である箇所が何ヶ所かあると思っている。1つは、話題に出てるヌックアンヌプリのロータリーのあたりで、もう1つはニセコビレッジのグリーンリーフホテルから降りて行ったT字路で、ここも毎年のように残念ながら事故が起きているので、そういった箇所にロードヒーティングを入れることも必要なではないか。ご意見を見ると、お好み焼き屋じゅうの交差点もあるようだが、おそらくあそこは一時停止をしないで出てくる車が多いために事故が起きているので、少し意味合いとしては違うように感じている。ロードヒーティングに膨大な費用がかかるということだが、重要性を踏まえると我々は決して高くないと思っている。

それから、二次交通の機能向上が喫緊の課題だという中で、観光DXやMa a Sといった非常に耳当たりの良い言葉が書かれていて、もちろんそうした取組みを否定するものではないが、こうした将来に向けての取組みの前に、現在の課題に取組む必要があると思っており、具体的には、地域内の交通機関の乗り場などで、乗り継ぎなどの情報が足りないというご意見をいただいている。現状でいうと我々の反省だが、それぞれの事業者が自分のお客様だけのことを考えて時刻表などを作っているためこういうことが起きている。もっと連携しようという話かもしれないが、この地域では、時刻表としてある事業者が地域内の時刻表（ニセコバス、道南バス、JR）だけを載せたものが新聞折り込みされている。ただ、わかりやすさの観点でいうと、少し疑問が残るものだと思う。一方で、倶知安町では、リゾートエリアのバス（ニセコバス、観光協会バス）やJRの時刻表がうまく入った地図を配っている。裏面に時刻表があるものだが、倶知安町役場で作っているようだが、非常に良い地図だと思うので、こういった全体を見ることができる資料の作成も必要ではないか。

観光協会について、町長もご指摘されている問題であるが、現在の観光協会には取締役7人、監査役2人、合わせて9人の役員がいる。この場にも4人出席しているが、全員非常勤である。ニセコリゾート観光協会は株式会社なので、取締役は職務を怠って何らかの損害が起きてしまうと、損害賠償責任を負うという非常に重たい責任を持っているにもかかわらず、全員が非常勤であるこの状況は見直す必要があると思っている。事務局長という肩書に限らず、知見のある方に常勤で入ってもらうことが必要ではないか。

最後に、自動運転について、皆さんの期待は非常に高まっているのだと思うが、私も仕事柄自動運転のバスには何度も乗っている。現状はまだまだで、速度は20キロとほぼ歩いているようなものである。また、大雨が降った際には、センサーが動かなかったのだが、雪が降るとどうなるのかということ問題もある。将来に向けて研究する必要はあるが、現状はまだまだ難しい問題だということを共有させていただく。

〈委員〉

お示しいただいたものについて3つほど気づきがあった。1つは、事務局からのご説明の最後のほうにも中長期ってことが非常に強調されており、会長も冒頭でおっしゃっていたが、やはり税の公共性のことを考えると、中長期のミッションにこそ投資をすべきだと強く思う。目前のものの課題解決も極めて重要で、その方が世論も盛り上がるが、やはり税としては中長期的なものに絞っていったほうが良いと個人的にも思う。それから、現状で何か大きく反対をする訳ではないが、資料の作り込みやバランスの問題で少し配慮したほうが良いと思う点は、例えば、教育旅行関連の事業などは、基本的に私の理解では、教育旅行というのは課税対象から除かれている。もちろん修学旅行で来る学生に直接裨益する訳ではないとはいえ、見え方としては税の課税対象ではない人たちに対して税を投入するように見えてしまう気がするので、資料の作り方や表現の仕方を変えられた方が良いのではないか。

同じように、基金についてもやはりこれは政策課税、観光振興の目的のための課税なので、私は基金が非常に重要なと思うが、あまりパーセンテージとして大きくなつくると目的税と言しながら目的が不明確なのではないかというような批判を浴びかねないので、それ

を避けるためにある程度基金の割合は押さえつつ、中長期的な事業も基金化するのではなく、具体化して投資していくというほうが良いのではないかと思う。

同じような理由で、コンテンツ関連の事業についても、観光協会は極めて重要なのでそこに投資していくというのはすごく良いと思うが、コンテンツというと先ほど事務局長から言っていただいたようなWeb上のコンテンツは良いとしても、何となく観光資源開発やお宝発掘事業みたいな曖昧なものに投資されることがよくあるので、この辺も文化や歴史などと先ほどおっしゃっていただいたようなものにある程度絞って、コンテンツという言葉ではなく、何が明確な使途なのかというところも、これも言葉の工夫だと思うがあつたほうが良いと思う。

最後は、資料の右上にある宿泊税活用というものがロゴなのかもしれないが、やはり町民の皆さんと観光客の皆さんにこの宿泊税の重要性をPRする上では、宿泊税で何をやっているのか、宿泊税のおかげでこういうことができているということをPRすることは極めて重要なと思うので、私は初期の数年については、ここにある程度の予算を割いてでもニセコ町として宿泊税がなぜ重要なのかということを訴えていくことに使っていくのも良いと思っている。

これらを踏まえた上で、今後の課題、検討が必要なポイントは3つある。

1つはやはり納税者が宿泊客であるということを考えると、例えば、道の駅の施設を含めた活用についても、あまり日帰りのお客さんに裨益するということを想定させないような言い方があったほうが良いと思う。あくまで宿泊客に裨益すると、これは間接的でも構わないが、そこの論理は崩さないほうがいい。

2つ目は、冒頭にも申し上げたが、税でできることを考えると、空間としての公共性や事業としての公共性というものが大事だと思うので、そう意味では、交通事業やロードヒーティングというのは、私は公共空間であつたり、或いは公共性の高い交通事業に投資していくことはあってしかるべき正しい方向と思う。

それから3つ目は、冒頭で町長からご表明があつたが、将来的な定率制への移行を想定するのであれば、宿泊料金に伴って税率が変わる、すなわち裨益の総量も異なるという論理についても検討が必要になる。宿泊費1万円の宿泊客よりも5万円の宿泊客の方が多く税率が高く、したがって裨益も大きくなる事業は何なのか。こういった議論が今後必要になると思っている。

〈馬渕課長〉

道の駅の件はおっしゃるとおりで、先ほど事務局から日帰り客が多いというような話も少し出てしまったが、私も道の駅に宿泊税を使うはどうかと思っていた中で、宿泊事業者から、泊まれた方に道の駅にいつも寄っていて、いつもトイレを綺麗にしていただいているありがたいというお話や、そういうことに使ってもらえるなら宿泊税をいくらでも支払うといったような声があつたと聞いて、地域の魅力の1つとして、宿泊者も少なからず道の駅を利用しているのだということがわかったところ。先ほど町長が申し上げたとおり宿泊税をすべて投入するのではなく、ある程度国の補助などを使いながら、その一部に宿泊税を活用していくという方向性は間違っていないのではないかと感じており、資料上に記載している。

空間としての公共性もご指摘の通りなので、ロードヒーティングについてこれまで課題があった中で、宿泊税をきっかけとして一步踏み出すことができると思うので、地域内の安全向上に資する施策に活用していかなければと思っている。

〈田中町長〉

勉強不足なため、ぜひ教えていただきたいのが、基金に積む割合が大きくなると本来の趣旨から外れてしまうというご指摘をいただいたが、他の基礎自治体でも宿泊税を導入していて、基金として積んでいるところと積んでいないところがあるが、具体的にどのぐらいだとある程度許容される範囲なのか。今でいうと、資料上は一旦5%と置いているが、これでも多いというニュアンスなのか、そういう視点が大事だということでご指摘いただいたのか。

もう1つ、これも何かアイデアがあれば教えていただきたいのだが、宿泊税の活用について地域の内外に対するプロモーションに予算を充てていくべきだというご指摘も、おっしゃる通りだと思っている。また、今回の定額から定率への議論がある中で、使途をしっかりと決めてからやるべきではないかというご意見があつたことも承知している。だからこそ、手続き的な話よりも、しっかりとこういう使途でいくかいかないかの議論、そして使った後の効果についてしっかりと事業者や町民に対して発信していくことは必要だと認識しているが、具体的にこういう取組みが効果的である、予算をかけるのであればこういう予算の充て方が良いのではないかといったようなものがもしあればご助言いただきたい。

〈委員〉

1つ目の基金について、個人的には5%程度であれば問題ないと思う。これは、実は学術的に何か根拠がある訳ではなく、政策実践においてどの程度が許容されてきたのか、という議論に留まる。すでに総務大臣の了承を得られているが、国、租税論の専門家、世論がどこまでを許容するのかを見定めることが重要であろう。やはり税ということで中長期的な投資がいいと冒頭で申し上げたが、そうしようとすればするほど短期的に意思決定ができなくなり、結果として基金としての積み立てにまわされていくという事例が多い。税の趣旨を踏まえれば本来はそれは望ましいことではないというような趣旨で申し上げた。

2つ目のPR事業については、右上のロゴを新規に作られたと認識しているが、例えば、このロゴでそのままいくのかどうか、住民の方や外国人観光客の方に対して、より分かりやすいようなロゴがいいかどうかという議論が必要だろうと考えている。ウェブサイトも他の基礎自治体に比べるとニセコ町の宿泊税のページはいろいろな関連資料等も充実していて、非常に良いと思うが、これを一般の住民や観光客が見るかというとなかなかそうではないかもしれない。分かりやすい例でいうと、京都市では他の事業に置き換えたときにどれぐらいの税の効果があったかを訴えたり、海外でいうと、やや乱暴かもしれないが、住民の皆さんに負担してもらうとこれくらいの住民税がかかっていたけれど、それを宿泊税で補ってこういう事業ができているというようなことを積極的に発信している。あまり恩着せがましく言ってもいいと思うが、特に初期については、特に町内の認知、事業者の皆さんとの継続的な協力をいただくことが重要であり、その意味でも広報事業が必要だと考える。

〈委員〉

地域内交通の充実について、ご意見も踏まえた施策ということで、重要性に鑑みても異論はないが、俱知安町や道との広域連携もぜひ考えていただきたい。

また、町民や観光客に対して、宿泊税を活用している事業であることがはっきりとわかるようにアピール方法を工夫してほしい。

さらに、重要なのは観光協会のさらなる強化と観光地域づくりで、この2つは連動していて、まず大事なのは観光協会の人的・組織的な体制の強化である。例えば、事務局長が3年間という期限付きとなると、どうしてもノウハウは人にくつついていくので、できるだけ同じ人がやることが、劣化・陳腐化という課題を踏まえても重要だと考える。

取締役に責任があるのに非常勤の方ばかりというのはおかしなことであるし、適材な人を全国あるいは世界から募集していくかないと株式会社としてやっていることの意味や中身がよく分からぬし、効果も出でていないように見える。結局のところ行政の受け皿事業で精一杯なのだと思うが、考え方を改めないと観光地域づくりがきっと成り立たない。観光協会が実際にどのような中身でどんな悩みがあり、何を改善しなければいけないのかということを考えないと、ゆくゆく中長期の計画が難しくなると思う。したがって、私は観光協会のさらなる強化と観光地域づくりの関係はすごく重要で、特に観光協会の強化が重要だと思ったところ。観光協会の現状について、審議会でテーマにするなど、本腰を入れて、熱量も加えてやっていかないと、実際に効果を上げていくのは難しいのではないか。ここは是非とも観光協会のさらなる強化を中心に考えていただくべきかと思う。これは、DMOでやるのかDMCでやるのかみたいな形ではなく、今の組織をどういうふうに変えていくと軌道修正できる

か、或いはこの宿泊税を効果的に展開できるかということに繋がるのではないか。

それから、中長期的な事業への活用が重要で、基金の5%はこの程度であればとやかく言わぬないと思うが、この災害発生時の初期対応という考えは順番が逆で、災害等発生時を後ろに表示しないと、こんなことに使うのかという目線になり、災害対応は行政の仕事ではないのかとなりかねないので、できれば中長期を想定した事業のために基金を積み立てるということを先に記述し、災害時に活用することもあるという表現がいいのではないか。

いずれにしても、連携をしっかりと進めていくことが重要と考えるので、農家や商工会との連についても、ぜひ検討を進めていただきたい。

〈委員〉

宿泊税を納めるのは宿泊者という中で、いわゆる顧客満足度が上がるような取り組みか否かが重要ポイントだと思っている。

具体的にはお客様はここに来たときに何に不便を感じ、どこが満足していないのかというところをやはりピックアップすることが一番重要である。地域の足がしっかりしていないのでレンタカーを借りなきやいけなかつたりも、地元の人は危ないことがわかっているのであってこんなことをしなくとも良いが、レンタカーで来た人は何もわからないのでロードヒーティングを実施しなければならない、といった悪循環になっていると思う。

レンタカーを使うのは圧倒的にアジア人が多い中で、アジア人が多く訪れる12月は事故が多くなりがちで、交通マナーの啓発をしっかりとしなければ、慣れている町民も恐怖を感じてしまうので、こうした安全対策にはぜひ予算をしっかりと使っていただきたいし、それは満足度向上にも資するを考える。

あと、不便に感じることとして、やはりWi-Fi環境や、キャッシュレス化対応は非常に重要で、ニセコ町内のキャッシュレス化がどれくらい進んでいるのかはわからないが、キャッシュレス対応していないと日本円を用意しないといけなくなり、両替所がないなどいろいろな問題が出てくるので、個人事業者もいる中でどう助成するかは難しいと思うが、非常に良いポイントではないか。

基金について、先ほど大きなものはなかなか載せられないという話があったが、基金を積んで実施すべき大きな案件があるのであれば今のうちからこうのことのために使いたいというしっかりととした目的を持つことが大事だと思う。

あとは、先ほどから複数の委員から指摘が出ているが、地域との連携という意味で私がいつも言っているのが、ニセコプロモーションボードについて、すでに来年度のある程度のお話も聞く中で、相当の金額を各自治体からNPBに資金を出しており、広域連携事業がどんどん増えているということだと思うが、この中でもやはり夏のコンテンツづくりが大事で、冬はあまり困っていない。やはり、夏のお客さんが今年は皆さんあまりよろしくなかったという中で、夏の問題にどう取り組んでいくかということが重要ではないか。プロモーションにても、NPBで例えば500万円の予算を持っていて、倶知安町もニセコ町もそれぞれ500万円を持っているのであれば、それが小さい500万円を使うのではなくて、全部合わせて1,500万円でやったほうがメリットも大きいと思うので、観光圏=NPBといった組織の中で少ない予算を使っていけるような、そういう仕組みができるかなと思っている。

あとは、蘭越町は宿泊税と関係ないが、倶知安町とお互いの宿泊税の中で共同してできる事業を何か模索できないのか、この辺も今後の課題と思うので、ニセコ地域の課題を解決するという意味では、やはり単体の町村で解決できない問題がたくさんあると思っている。広域的なニセコエリアとしての課題解決にこの宿泊税を幾らか財源として供給していただければ、お客様は満足するのではないかと思う。

〈委員〉

ラインレーザー、プールとジムは私も賛成で、都会よりも地方の子のほうが肥満率の高さが目立つという話も聞いたので、町民福祉の観点からも、プールはよいのではないか。

また、資料2に書いてある意見で、「自家用車で來ることも多い工事関係者には何もメリ

ットもなく、ただ宿泊税を徴収するだけとなる。工事関係者への還元策の検討を強くお願いしたい」とあるが、こう言われるとなるほどと思うが、副町長にもう一回教えて欲しいのだが、そもそも宿泊税というもののきっかけは、環境税という環境に対するものがあつたらいよいよね、というところからだったように記憶しているが、その最初の原点をもう一度教えていただきたい。

〈山本副町長〉

ニセコは農業と観光のまちで、観光業が産業の基盤の1つなので、宿泊税の導入が観光にも間違いなく資するという考え方の中で、環境を守っていくということも含めて話をしてきたが、環境だけにお金を使うという意味では当初から決してなかったところである。

〈委員〉

夏の落ち込みは私もすごく感じており、やはり日本人の消費動向が変わったのではないかと思う。あと、海外の方で観光だけではなく、ニセコに住むという方も徐々に増えていると感じていて、いろいろと変わっていく環境を整備するという意味で、ごみや浄化槽、電柱については、中長期的に意識していただきたい。優先順位はその都度変わると思うが、ニセコに対するイメージがもしかしたらすごくラグジュアリー的なものに変わっていっているのかなと思う。例えば、11月は閑散期だと思っていたが、良い夫婦の日（11月22日）にすごく花の需要が一気に上がった。これは今までになく、赤バラ108本というものが連續であったので、プロポーズしに来る場所になっているのではないかと考えられる。また、日本人も海外の人のようにバラを送る習慣が根づいてきているのもあるが、ニセコに来て何か思い出をつくろうといった感覚になってきているのではないかと思ったときに、やはり景観がきれいだと感じられる場所にするのであれば、電柱はないほうがいいし、無造作な看板は美しいと思わない。そういう部分も文化というところに入ってくるだろうし、お金を投資して返ってくるものではないので、ラグジュアリー的なものの価値を上げることも視野に入れておくとよいのではないかと思った。

〈委員〉

冬のニセコはオーバーツーリズムなので何とかもう少しコントロールしようという点に加え、夏をどうしていくかが問題だと思う。夏をどうしていくかを今から考えていくことが重要で、これまでの業務経験等も踏まえ、マーケティングでこんなことができないか、皆様にまた広く考えていただきたいということをシェアさせていただきたいと思う。

1つは、ニセコ町で夜にお金を落としていただくところがまだまだ少ない。居酒屋や地元のお店はあるが、やはり人手が足りなくて、予約が取れなかったり、人数を制限している中で、ニセコの道の駅の夜間営業は可能か。これは投げかけなので皆さんに考えていただければと思う。シンガポールや香港、マレーシアでもそうだが、アジアの観光地はやはり夜もそぞろ歩きであったり、露店などお客様が集うところがしっかりとしており、観光客も宿泊するのでお金が落ち、そこでコンテンツが増えてまた来たいと思ってもらえる。地元の方にも、もしかしたらそうしたところで自分たちの料理を提供してみたいとか、調理師の免許を持っている方が短期間でお店を出してみたいとか、地域の方たちとの触れ合いという場ができるのか。それによって、夏のニセコに来る理由が増え、夏場の観光需要にも繋がるのではないかと思っている。

あとは、これから冬を迎えるが、マーケティングの観点から言うと、私たちは夏の打ち出しをする。観光協会にプレッシャーをかけるのではなく、この前じやらんの方と話したが、確かに十勝地方では、じやらんのプラットフォームを使って地域クーポンを作っていた。ホテルがパッケージを作るときに、例えば、ニセコクーポン5,000円つきというプランを販売し、ホテルに限らず、町内で使えるお店にステッカーを貼っていただいて使っていただけるといったプラットフォームが、じやらんのみならず国内の大手企業すでに持っていて、実績も出していると聞いているため、既存のプラットフォームに私たちがお金を積んで乗っか

り、それで人を呼び、そのノウハウが上手くいくのであれば、来年、再来年は自分たちで運営ができるのではないかというようなことも考えていいのではないかと思ったところ。

〈馬渕課長〉

私たちだけで考えるべきではない部分も出てきたと皆さんのご意見を伺いながら感じるところもあり、特に中長期的に活用する事業などに関しては、こちらの詰めが甘かった部分もあった。

今後については、皆さんのご意見も踏まえて、予算の中身を変更しつつ、予算ヒアリングに臨もうと考えているが、内容的に大きく変更するかどうかも踏まえ、最終的な案を皆様にお返ししたほうがいいと今日の意見を聞いて思ったところ。また、集まっていたら難しいので、メール等でやりとりしながら最終的な方向性を決めていければと思っている。

〈委員〉

集まる機会があれば集まってもいいと思う。今回特に定率制というところで議論が大分金額の増えるところから始まり、その具体的な使い方まではやはり議論しきれてないというのが実態だと思。例えば、議会の説明を踏まえて議会からもいろいろなご意見があると思うので、1月などにより具体的な方法論の話もしていったほうがいいのではないかと思う。

〈委員〉

オンラインかリアルかに関わらず議論できる場はあったほうがいいと個人的には思うが、予算の話なので現実的なスケジュール感もあるのかなと。ただ、今回はこの宿泊税の使い道というテーマで、いわゆる諮問機関がこの審議会だが、この場に限らず、いろいろなことを言える場があると良いと思う。今回、委員は有識者や先生方であるが、それ以外の一般町民や事業者もいろいろな意見を持っていることが分かったので、観光カフェなどももちろん重要で、そういう機会が増えていくといいのかなと思う。一方で、スケジュールについても調整してやっていただけたらと思う。

〈馬渕課長〉

スケジュールが実は詰まっており、予算の最終提出が12月12日となっている。それまでに、この大元のたたき台を踏まえて、我々で予算化していくところなので、あらためて皆様にメール等で発信し、そこにご意見をいただきてこの案を固めたいと思っている。ただ、集まるとなると、申し訳ないが時間と準備等が間に合わないかもしれない、できればメールで送らせていただきたい。

〈委員〉

観光審議会で方法論の話などを深めていく必要があるので、そこを早めに段取りできるといいのではないかと思っている。

今の観光協会の体制やテクニカルな部分で副町長がおっしゃる通り、実際はもう蓋を開けて事業を走らせてみないと分からぬところもあると思うので、そのあたりは実際に今話しているような観光協会の体制のことを考える機会は必要だと思う。

〈米田係長〉

予算とは別になるが、もともと前回の審議会でもお伝えした通り、今年度が観光振興ビジョンの中間年というところもあり、見直すべきところは見直したいと思っている。本日いただいた中長期的な使い道のプラスアップ等については、年明け以降に皆さんからご意見をいただき、お集まりいただいて議論ができればと思っている。

〈委員〉

先ほど、宿泊税の定率制に向けたお話を観光審議会にもう少し説明が欲しかったという意

見は、おそらく各委員も思っているところだと思うので、今後すべてを審議会に通すことは難しいと思うが、我々はそれぞれの観点で、アドバイスできることや協力できることがたくさんあると思うので、対立構造ではなく、お互いに観光をどうにかしないといけないという気持ちがあるので、うまくお互いに有効活用しながら頼るところは頼り、気軽に投げかけていただきながら進めていけばいいのではないかと思う。

〈馬渕課長〉

スケジュール的に時間がないのは、あくまで来年度予算の関係に関する事なので、その辺はメールなどでいただきながら、その他の中長期の案件や他のもっと詰めていったほうがいい部分に関しては、集まる機会を設けていきたいと思う。

(5)田中町長挨拶

現場にいらっしゃる皆様の声について、今日この場にいる委員も、アンケートも本当に生の声であるということで改めて勉強させていただいた。

本来であれば、いろいろと個別に深掘りしていきたいところもいくつかあり、町として本当に中長期的な観光ビジョンに並行して、論点だけ頭出しさせていただくと、例えば、市街地の綺羅街道をはじめとした、町の中心部でどんどん飲食店が減ってきてているということを一市民として課題を感じており、市街地の中ではなかなか住める場所もなく、お店を出す場所もないといったところにもすごく課題意識を持っている。これは、観光の側面、宿泊税の観点とはかけ離れるかもしれないが、これはニセコで長く住まわれたり、事業をされている方から、やはり海外も含めたその他の観光地では、市街地での町民との交流を楽しみにする方もいると認識している。それが今、交通の面も含めて、或いは市街地に行ってもお店がほとんどない状況は寂しいということを、たまたま別の機会に、選挙期間も含めてご意見をいただいたこともあって、観光だけではなく、町の方針についてもしっかりと整合性をとって考えていく必要があるというところも、皆さんのご意見を聞きながら少し考えていたところ。

あとは、やはり俱知安町や広域での連携、国や道というキーワードをいただいたが、ニセコ町単独でやることには限界があり、もしくは根本的な課題解決になっていないというところは非常に感じており、もちろん超えないといけない壁はあると思うが、私としては、ぜひそこは皆さんと一緒に壁を超えていきたいというところでもっと連携をしていくこと。そして、もっと広い視野に立ったときに、るべき姿から逆算して政策を考えていくといったところは、観光振興以外も含めてしまつかりと見据えていきたいと皆様からも気づかせていただいた。審議会、或いは観光カフェ町民講座や町民懇談会を含めてこれからいろいろなところで住民の皆さん、事業者の皆さんとの対話をさせていただく機会もあると思っている。最終的には、執行部として、ニセコ町として予算のご提案をさせていただくが、町民の代表の議員の皆さんに、どうご審議いただくかというところで、予算については少なくとも決まっていくが、この場で話せなかつたことがたくさんあると思うので、ぜひ、引き続き貴重なご意見等をいただければと思っている。

(6)その他

委員より、次回以降は事前に資料を配布し、読み込んでもらっている上で当日を迎えていることを前提とすれば、この場でもっと議論の時間を多く持てるので良いのではないかなどのご意見をいただいた。

上記を踏まえたうえで、最後に事務局から次回の観光審議会に関する知らせがあった。

以上